

コード No. 20-S-002

提出日：2020年8月31日

## 令和2年度「＜新型コロナウイルス＞アフリカ緊急支援「生きる」 ために食糧と手洗いを届けたい」報告書

特定非営利活動法人エイズ孤児支援 NGO・PLAS

門田瑠衣子

### 1. プログラムの目的

アフリカの多くの国では、保健医療システムが十分に整備されておらず、新型コロナウイルス感染症に感染し重症化した際に対応できる病院はほとんどありません。それだけではなく、衛生面でも、十分に整備がされておらず、感染予防のための十分な物資、そして知識や情報も不足しています。

さらに深刻なのは、生きるための食糧の問題です。PLAS が活動するウガンダのジンジャ県、ルウェロ県では、経済的な余裕がない方も多いです。もともと貧しい状態に、ロックダウンや経済悪化、物価上昇が影響し、命をつなぐ食糧さえも手に入らない恐れがでてきており、危機的な状況にあります。

ウガンダの現地パートナー団体カユンガ代表のジョイ氏は「この状態があと2、3か月続けば、貧しい人たちから亡くなっていく」と語ります。ウジ（おかゆ）を1日1杯食べることにしかできない家庭が多く、たくさんの SOS が届いています。そこで、当会は緊急支援を立ち上げました。

### 2. 主な活動内容・スケジュール

#### [主な活動内容]

ウガンダのジンジャ県およびルウェロ県にて、HIV 陽性の貧困家庭やひとり親家庭に対して、食糧支援と感染予防支援を行いました。現地パートナーが現場でのオペレーションを担い、ウガンダ政府からはロックダウン下でも活動できる許可を取得しています。

#### [対象者の概要]

対象者概要：HIV 陽性の貧困家庭やひとり親家庭

対象地：ウガンダ共和国ルウェロ県、ジンジャ県

対象者数：1140名

対象世帯数：190世帯

## [緊急支援の配布詳細]

配布した食糧は、下記の通りです。

1 世帯あたりに配布する食糧、石鹸等は以下のとおりです。

- ・ポシヨ：10 kg （トウモロコシの粉でできたウガンダの主食の一つ）
- ・米：ルウェロ県 20 kg、ジンジャ県 15 kg
- ・豆類 10 kg
- ・塩 3kg
- ・砂糖 5kg
- ・粉ミルク 1 缶
- ・抗菌石鹸 3 個

## [実施スケジュール]

2020 年	5 月	現地団体との事業契約締結（50 家庭）、現地への送金、食糧、石けん等の購入、緊急支援配布の実施
	6 月	現地団体との事業契約締結（140 家庭）、現地への送金、食糧、石けん等の購入、緊急支援配布の実施

## 3. 助成を受けた活動の報告（様子がわかる写真等があれば貼付してください）

## [感染予防]

手洗い用の抗菌石鹸を各家庭に配布し、手洗い方法や新型コロナウイルスの感染予防の啓発を同時に行いました。



## [食糧・生計支援]

緊急支援として 1 か月分の食糧を提供しました。

米 15 kg、トウモロコシ 10 kg、豆 10 kg、砂糖、塩、粉ミルクをパッケージにして配布しました。配布については現地団体の近所に住み、歩いて事務所を訪問できる受益者には、バイクで各世帯に配布しました。



現地スタッフはウガンダ保健省や村長に支援活動の許可を取り、部分的ロックダウンの中で、バイクを使用し、購入から配布まで行いました。配布や仕分けを行うスタッフは、事務所に到着を体温を確認しました。バイクで配布に行くスタッフには、除菌ジェルを携帯してもらい、マスクとグローブを装着してました。



#### 4. 活動の成果（成果物などがありましたらご紹介ください）

申請時の達成目標の成果状況は以下です。

- ① 190 世帯（1140 名）に 1 か月分の食糧を提供する。  
[成果]達成できた。190 世帯に食糧を配布した。
- ② ①の食糧により、1 日 1 人当たり 900kcal を目安に栄養摂取する。  
[成果]達成できた。1 日 1 人当たり 900kcal の食糧を配布した。
- ③ 小さな子どもを抱える家庭には粉ミルクを配布し、子どもの栄養状態を維持・改善する。  
[成果]達成できた。母乳をあげる母親やマラリアで体調不要になった母親が粉ミルクで栄養分を確保できたと報告を受けた。
- ④ 190 世帯（1140 名）に 1 か月分の石鹸を提供する。  
[成果]達成できた。190 世帯に石鹸を配布した。
- ⑤ 190 世帯に石鹸を使用した手洗い指導を実施する。  
[成果]達成できた。石鹸を受け取った受益者と一緒に現地スタッフが手洗いすることにより、正しい手洗いを指導できた
- ⑥ ④⑤により新型コロナウイルスの感染拡大を予防する。

[成果]達成できた。配布地域の感染者報告はなし。

#### 5. 今後の課題

本事業により、新型コロナウイルス感染症拡大およびその社会経済的影響の危機を乗り越えたのちには、改めて受益者たちが自立の道を歩めるように、力添えしていくことが課題となると考えています。例えば、本緊急支援の受益者の中にはグループ農業により生計向上を目指す HIV 陽性のひとり親の方々がいます。事態が収束したのち、調査を行い、農業事業の復興支援へつなげていきます。具体的には、農業研修や指導を再開し、自立に向けてきめ細やかなフォローアップを実施していく予定です。